

# 教科等研究会（中学校音楽部会）

## 令和4年度 研究活動のまとめ

### 1 研究テーマ

主体的・対話的で深い学びを実現する音楽科授業の創造

### 2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	内容	期日	場所	授業者	期日	場所	内容
6/6	10人	甲佐中学校	8/8	嘉島中学校	講話	12/2	益城中学校	益城中学校 小川栞奈教諭	1/26	嘉島中学校	レポート 研修 1年間の まとめ

### 3 研究の概要

#### (1) 研究の内容

昨年度までの2年間、「イメージを伝え合い、協働する喜びを感じる音楽科授業～主体的、対話的で深い学びを目指した授業づくりを通して～」を研究テーマとして、感じ取ったイメージを基に協働する活動を充実させることで、協働する喜びを感じる音楽科授業を考えることにした。本年度は昨年度までの研究を引き継ぎ、音楽科の授業における「主体的・対話的で深い学び」とはどのようなものか研究することとした。また、今日的課題でもある、著作権に関する学びも研修において行うこととした。

#### ① 第2回 講話（8月8日）

講話「著作権について」

講師 原口 直 氏（一步先ゆく音楽教育主宰、東京学芸大学子ども未来研究所教育支援フェロー音楽文化事業に関する有識者委員会委員/JASRAC 共通目的事業委員会専門委員/SARTRAS）

著作権の基礎からの講話を行っていただいた。作品は作った人のものであることを原則として、使う、増やす、変えるには許諾が必要であるが、学校は例外として著作権の許諾が必要でないことを学んだ。しかし例外であるのは授業のみであることを、私たち教員は勘違いをしてしまいがちであるため、教員こそ指導する立場として著作権についてしっかりと理解しておくことが必要である。講話では、教員採用試験で出題された問題や、最近の著作権侵害のニュースなどを取り上げられ、私たちがどのようなことに気をつけるべきか示唆していただいた。また音楽科の授業で、著作権について取り扱った授業実践例も示され、今後の授業づくりの参考となった。

#### ② 第3回 授業研究会（12月2日）

題材名「オペラに親しみ、その音楽を味わおう」（出版社「教育芸術者」 p52～53）

（主教材：歌劇「アイダ」全4幕7場 G.ヴェルディ作曲）

授業者 小川 栞奈 教諭（益城中学校）

授業を見る視点を、①主体的・対話的で深い学びを実現する授業となっているか、②曲想と音楽の構造とのかかわりを理解するような授業となっているか、の2点とし、授業研究会を行った。（授業研究会については、4 実践事例で報告。）

#### ③ 第4回 実践報告会（1月26日）

各校で行った、実践の報告を行った。研究テーマである「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、ICTの活用やグループ活動の工夫についての報告があった。

#### ア ICTの活用について

GIGAスクール構想の実現により、1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークが整備された。そのため各校から、効果的なICTの活用についての実践が報告された。生徒同士の意見の交流や、意見の集約、提出などにはロイロノートの活用が有効であった。

また、音楽科では自分の演奏を録音することにより、自分の演奏を客観的に判断し、より主体的に学習に取り組む態度を育成することができた。鑑賞においては、鑑賞曲を配布することにより、自分でじっくり何度も鑑賞する場面を作るなど、場に応じた鑑賞の工夫を工夫した。創作においては、ICTは大変有効なツールであるが、iPad以外で使用可能なソフトが少ないため、どのようなソフトを使用するのかについて、検討が必要である。

#### イ グループ活動の工夫について

意見の交流では、どの学校でも個→グループ（ペア）→全体と意見を広げられるように工夫がなされていた。グループ作りについては、4～6人でのグループ分けの学校が多く、歌唱パートごとでの意見交流をされている学校もあった。また、歌唱活動において、5～6人のグループで歌唱表現の創意工夫をさせ、歌を作り上げる活動もあった。様々なグループ活動により、音楽の授業が苦手だと感じている生徒も、グループ内で理解を深め、意見を交流することで意欲的に学習に取り組むことができた。

### (2) 成果と課題

#### ① 成果

本年度は講話として、著作権について学びを深めた。中学生や高校生が著作権侵害で逮捕される事件も起こっており、私たち教員がしっかりと学ぶ必要があるため、大変有意義な時間となった。

授業研究会では、どの学校でも取り組んでいる「アイダ」を主教材とされていたが、重唱曲での比較という新しい視点での授業提案であった。ヒントカードの利用や、効果的なグループ活動で、誰一人取り残さない授業の実現について考えることができた。

#### ② 課題

3年に渡るコロナ禍で、音楽科では取り組むことが難しかった領域（歌唱や器楽の領域）があるため、身に付けておかなければならない基礎的・基本的事項が身につけていないことがある。1年1年でどのような力を生徒に身に付けていくのか、育成を目指す資質・能力を意識しながらの授業づくりが必要である。また、音楽科における効果的なICT活用についてもさらに研究を進めていきたい。

## 4 実践事例

### (1) 授業の概要

題材名「オペラに親しみ、その音楽を味わおう」

授業者 小川 栞奈 教諭（益城中学校）

#### ① 授業概要

オペラ「アイダ」を鑑賞し、舞台芸術のすばらしさを感じ取ると共に、登場人物の豊かな音楽表現について感じ取る。本時の授業では、アイダ、アムネリス、ラダメスの三重唱を比較聴取することにより、心情の変化と歌い方がどのように関連しているのかについて聴き取る。

#### ② 授業者自評

本時の授業では、強弱と音色に着目して比較聴取させることとしたが、なかなか絞りきれいでなかった。特に音色についての聞き取りがあまりできなかった。もっと音楽的な表現での振り返りを行わせたい。

#### ③ 参加者事後アンケートから

- 個で考える時間と班で考える時間、全体で考える時間を設定することで、子どもたちが流れをつかんで授業に参加できていた。
- ヒントカードを使用することで、主体的に深い学びができるし、グループで考え共有することでさらに深い学びに繋がったのかなと思いました。
- 対話の視点が明らかにされた上で、生徒が主体的に活動できていた。その時間の確保も十分なされていて、他者の気づきを共有することで深い学びにつながっていたと感じた。



- 知識を獲得するためのプレゼンテーションの工夫や ICT の効果的な活用が大変参考になった。三重唱を比較するという新しい視点での授業を提供していただき、来年度の自分の授業づくりに活用していきたい。

## (2) 学習構想案

### 1 題材構想

題材名	「オペラに親しみ、その音楽を味わおう」 (出版社「教育芸術者」 p 52~53)		
題材の目標	<p>(1) 曲想と音楽の構造との関わりを結び付けて鑑賞し、音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解し、生活や社会における音楽の意味や役割について考えて聴くことができる。 【B鑑賞(1)ア(イ)】</p> <p>(2) オペラ全体の魅力や、登場人物の心情・内容と曲想との関わりを理解しながら、主体的・共同的に鑑賞し、自分なりにオペラ「アイダ」の良さや美しさを味わって聴く力が身につけている。 【B鑑賞(1)イ(イ)】</p>		
題材の評価規準	知識・技能 (知識)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。	①オペラ「アイダ」からの強弱・音色・旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。 ②知覚したことと感受したことの関わりについて考え、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いている。	①総合芸術としてのオペラの魅力や、曲想と物語の内容との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・共同的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
題材終了時の生徒の姿			
題材を通し感じたオペラの魅力からさらに発展し、生活の中で出会うミュージカルや舞台などの様々な音楽に興味・関心を持って、それらが持つ音楽の良さと豊かに関わろうとする生徒。			
題材を通した学習課題		本題材で働かせる見方・考え方	
歌手の歌い方・音楽の特徴と物語はどのように関わっているのだろうか。		音楽に対する感性を働かせ、強弱・音色・旋律等とそれらの働きの視点で捉え、登場人物の心情や内容などと関連付けること。	
指導計画と評価計画 (3時間取扱い 本時2 / 3)			
時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」	
1	○総合芸術「オペラ」について、舞台装置や衣装、声の出し方の特徴などを学び、学習シートに記入する。 ○アイダのあらすじについて理解する。	【態①】 (ワークシートの記述・観察)	
2	○「アイダ」より「震えるがいい! (緊迫の三重唱)」と「さらばこの世よ、涙の谷よ」を比較しながら鑑賞し、登場人物の心情を想像し、ワークシートに記入する。 ○「アイダ」より「震えるがいい! (緊迫の三重唱)」と「さらばこの世よ、涙の谷よ」を比較しながら鑑賞し、ラダメス役の歌声について、声の音色・強弱について知覚したことと、感受したことの関わりについて考え、ワークシートに記入し、級友の意見を聞き、聴く視点を深める。	【態①】 (ワークシートの記述・観察) ★【思①】 (ワークシート分析・観察) ○2曲の曲想や声の音色や強弱について知覚したことの記述や発言がある。  ★【思②】 (ワークシート分析・観察) ○2曲から知覚した音楽の要素と登場人物の心情との関わりについての記述や発言がある。	
3	○アイダの各幕から1曲ずつを鑑賞し、物語全体の魅力や総合芸術としての「オペラ」の魅力を味わう。 ○登場人物の心情や内容と曲想との関わりを感じ取り、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさについて感じ取ったことを、紹介文としてまとめワークシートに記入する。	★【思①】 (ワークシート分析) ○2曲の曲想や声の音色や強弱について知覚したことの記述や発言がある。 ★【思①】 (ワークシートの記述・観察) ○オペラ全体の魅力や、登場人物の心情・内容と曲想との関わりについて記述・発言があり、学習全体を振り返り、自分が学んだことを、学習内容を踏まえて書いているか。 ★【知①】 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。	

## 2 本時の学習

(1) 目標 2曲の三重唱を比較し、音色や強弱などの要素と登場人物との関わりを味わいながら鑑賞できる。

### (2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の反応)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図・内容・方法等)
導入	3	<b>1 課題をつかむ</b> ①「アイーダ」のあらすじを復習する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【めあて】音楽の特徴をヒントに、登場人物の心情を予想しながら鑑賞できる。</div> ②「問い」について考える。 ◇強弱や音色と曲の雰囲気について考えたことがある。	○前時までの学びを振り返り、本時での鑑賞のポイントについて、焦点を絞っておさえる。  (「問い」を生み出す手立て等) ○1年生で学習した「魔王」の内容を例に、曲想と音楽の関わりについて鑑賞する授業のイメージを持ち出す。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【学習課題】音楽の特徴はどのようにして心情を表しているのだろうか。</div>
展開	30	<b>2 課題の解決にむけて活動する。</b> ①A「震えるがいい！(緊迫の三重唱)」とB「さらばこの世よ、涙の谷よ」を鑑賞し、どのような場面か、登場人物はどのような心情かを予想し、全体で共有する。 ◇立派に歌う感じがする。嬉しそう。感情が高ぶっている。二つ目は悲しそうに歌っている。 ②「震えるがいい！(緊迫の三重唱)」と「さらばこの世よ、涙の谷よ」を鑑賞し、ラダメス役の声の音色や強弱の変化について比較鑑賞する。(個人) ③ワークシートに記入したことをグループで出し合い、自分が聞き取れなかった音の特徴や新しい気づきを色ペンでワークシートに記入する。 ④全体で共有し、実際の音楽表現を確認する。  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【期待される学びの姿】 声の音色や強弱と、登場人物の心情についてどのような関わりがあるかを書いている。</div>	 <p>○ヒントカードを使い、「音色」について自分が知覚したことを言語化できるよう支援する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【具体の評価基準】思① 2曲の楽曲を比較し、音楽の特徴や声の音色や強弱、その他の特徴について記述がある。 (方法：ワークシートの記述)</div> <p>【到達していない生徒への手立て】 ○着目しやすい部分を絞って鑑賞させる。また、まずは強弱の違いに視点を絞って比較するように促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【具体の評価基準】思② 音楽の特徴や声の音色や強弱と、登場人物の心情についてどのような関わりがあるかを書いている。</div>
終末	7	<b>3 オペラの表現と曲想の関わりについておさえる。</b>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【まとめ】・オペラ歌手は声の音色や強弱を巧みに変化させ、観客に登場人物の心情を音楽で伝えている。</div> <b>4 学習したことを振り返る。</b> ◇登場人物の気持ちにあわせて歌い方に変化を付けていることが分かった。やわらかく細い声の出し方から、悲しさを感じた。	○同じ歌手が歌っているけれど、歌い方によって心情が伝わってくることを伝える。